

強者の戦略

【「役割」に特化してかかないと…】

こんにちは、最近みなさんの論述の答案と戦っている北林です。受験も間近ですから過去問や演習問題にがっつき取り組んでくれていると思います。最後の最後まで伸びることを信じて「戦って」ください。勝ちに行きましょう。力を出し切って受験を終えてください。

そんな北林は鼻をかみつつ添削をしています。花粉の時期がそろそろなのかな。それともどこからか何か物質が飛んできているのだろうか…。鼻炎持ちの私にはすこし辛い季節が訪れます。皆さんは本番まで風邪をひかないように…。

さて、今回なぜこの問題にしたのかというと、生徒が答案をたくさんもってきてくれるのですが、よく問題を読んでいない生徒が多く、これでは点数がない、と危機感を感じたからです。大体おなじ指摘を添削に書くんです。というわけで、簡単なワンポイントアドバイスを添えておきたいと思います。

《ワンポイントアドバイス》

問題を確認しましょう。

ヨーロッパ大陸のライン川・マース川のデルタ地帯をふくむ低地地方は、中世から現代まで歴史的に重要な役割をはたしてきた。この地方では早くから都市と産業が発達し、内陸と海域をむすぶ交易が展開した。このうち 16 世紀末に連邦として成立したオランダ(ネーデルラント)は、ヨーロッパの経済や文化の中心となったので、多くの人材が集まり、また海外に進出した。近代のオランダは植民地主義の国でもあった。

このようなオランダおよびオランダ系の人びとの世界史における役割について、中世末から、国家をこえた統合の進みつつある現在までの展望のなかで、論述しなさい。解答は解答欄(イ)に 20 行以内で記し、かならず以下の 8 つの語句を一度は用い、その語句に下線を付しなさい。

グロティウス

コーヒー

太平洋戦争

長崎

ニューヨーク

ハプスブルク家

マーストリヒト条約

南アフリカ戦争

主問は

「このようなオランダおよびオランダ系の人びとの世界史における役割について」

時期は

「中世末から、国家をこえた統合の進みつつある現在までの展望のなかで」

■ 「このような」とありますので、文章をよく読んでみましょう。文章を分解してみると

・ ライン川・マース川のデルタ地帯をふくむ低地地方

→早くから都市と産業が発達し、内陸と海域をむすぶ交易が展開した。

・ このうち 16 世紀末に連邦として成立したオランダ(ネーデルラント)

・ ヨーロッパの経済や文化の中心となった

・ 多くの人材が集まり

・ 海外に進出した

・ 近代のオランダは植民地主義の国でもあった。

このような、の中身はこんなかんじです。この時期の皆さんですから、ざっと流れを書くことはできるで

強者の戦略

しょう。しかし残念ながら「世界史における役割」を書いてない解答が多くみうけられます。

たとえば、独立戦争があったことは皆さん書きます。でも独立した、だけでは役割にはなりません。スペインの没落のきっかけ、とでもしないと「役割」ではなくなります。経済や文化の中心になったからこそ、人材があつまるのですが、人物など具体的なことが書いてない解答が多いです。文化にも言及していない人がけっこう多い。そして海外に進出したのは書いてますが、それがどんな役割を持ったか書いてないことも多いです。江戸時代の日本と貿易をしたなら、蘭学が日本に伝わったり、西洋の様子がオランダを通じて伝わったり、また日本の文化やアジアの文化が西欧に伝わることにもなります。「近代のオランダは植民地主義の国でもあった」とあります。太平洋戦争という指定語句がありますから、オランダ領東インドの支配、日本の進出は書いています。でも「役割」だったら、大戦後オランダが戻ってくることで、民族意識を高めた(独立戦争になった)ということを書かないといけません。

みなさんはやってみてどうでしたか？

■ 「中世末から」とありますが中世末期、そ 14 世紀・15 世紀について書いてない解答も多くあります。まだオランダとして独立していませんからネーデルラント全体をみることになりませんが、低地地方とあるので、フランドルも含めてこの地域全体を見ることができるでしょう。すると、百年戦争の争奪の場になったフランドルについてもかけます。いつからいつまで書くのか、しっかり見ておかないといけませんね。

というわけでアドバイスを簡単におきました。解答例を載せておきますので、いろいろ考えてみてください。東大の問題はいろんな答えが書けます。気になることがありましたら、遠慮無く書いてください。では健闘を祈っています。

《解答例》

毛織物工業で栄えたブリュージュ・ガンなどのフランドルは百年戦争の争奪の場となり、イングランドに亡命した職人はその地で毛織物工業を勃興させた。15 世紀末にはハプスブルク家の領土となり、16 世紀にはアントワープを中心に栄えたが、カルヴァン派が広がったこの地にスペインのフェリペ 2 世が旧教政策をとり、独立戦争となった。南部は脱落したが北部は連邦共和国として独立を宣言、スペイン没落のきっかけとなった。1602 年に東インド会社を設立してアジアに進出、鎖国中の日本とも貿易し、長崎より蘭学を伝え、アジアからコーヒーや茶を西欧に広め生活を変化させた。新大陸では後にニューヨークの起源となるニューアムステルダムを建設した。オランダは 17 世紀に国際金融の中心となりその繁栄は高い造船技術やヨーロッパ初の公立銀行を生み、デカルトやスピノザなどの哲学者が現れ、バロック芸術のレンブラントなど学芸も生み出した。三十年戦争ではグロティウスが国際法を提唱し和解に影響を与えた。ケープ植民地を形成し、子孫のブルー人は 20 世紀の南アフリカ戦争終結後にイギリスと妥協し、アパルトヘイトのもととなった。またインドネシアを植民地化し、1830 年から強制栽培制度を始めたが、その支配や太平洋戦争後も独立を認めなかったことがインドネシアの民族主義に火をつけた。原加盟国として当初から加盟した EC にマーストリヒト条約を成立させ、EU の中心的役割を果たした。(600 字)